

てーま  
テーマ4

い ちから  
生きる力を  
まな はぐく  
学び、育む

しょうがいじ ひつよう しえん おこな きかん ふくしさにびす  
障害児に必要な支援を行う機関や福祉サービス  
とう すこ しゃかいしげん ふ ほんし  
等、少しずつ社会資源などが増えてきており、本市  
そうきはつけん そうきりょういくしす てむ しく  
では、早期発見・早期療育システムの仕組みの  
じゅうじつおよ りょういく きょういく れんけいきょうか と く  
充実及び療育と教育の連携強化などに取り組んで  
きました。

また、しょうがい すべて こ  
障害のあるなしにかかわらず、全ての子  
すこ せいちょう しさく りょうじつ  
どもが健やかに成長するための施策も、良質かつ

てきせつ かくほ たと ほいくしよ ようちえん りょう しょうがいじ せつきよくてき  
適切に確保しなければなりません。例えば、保育所や幼稚園などを利用する障害児の積極的  
うけい そくしん ひろ こそだ しえん しつ こうじょう うえ しょうがい  
な受入れを促進することは、広く子育て支援の質の向上にもつながります。その上で、障害  
しょうきょうとう こ に ーず おう せんもんてき しえん おこな たいせい じゅうじつ ひつよう  
の状況等個々のニーズに応じた専門的な支援を行う体制の充実が必要です。

にゅうようじき がくれいき つう かぞく とも がっこう せんせい おとな かか かた  
乳幼児期から学齢期を通じて、家族や友だち、学校の先生などの大人たちと関わり、語り  
あ まな あ ちから み つ よこはま めざ  
合い、学び合い、いきる力を身に付けていくことができるまち、ヨコハマを目指します。

そのためには、にゅうようじき がくれいき せいねんき こうれいき らいふすてーじ つう き  
乳幼児期、学齢期、成年期、そして高齢期と、ライフステージを通じて切  
いっかん しえんたいせい こうちく してん ふ しさくてんかい ひつよう  
れめのない一貫した支援体制の構築という視点を踏まえた施策展開が必要です。

とく そうき おこな りょういく じゅうじつ がくれいき こま たいおう ご せいちょう  
特に、早期に行われる療育の充実や学齢期におけるきめ細かな対応は、その後の成長にと  
じゅうよう  
って重要です。

そこで、してん ふ たよう にんげんかんけい しゃかいせいかつ けいけん かさ とりくみ  
そこで、その視点を踏まえ、多様な人間関係や社会生活の経験を重ねられるような取組を  
おこな ちいきりょういくせん たー ちゅうしん そうきりょういくたいせい きょういくかんきょう じゅうじつ すず  
行いながら、地域療育センターを中心とした早期療育体制や教育環境の充実を進めます。

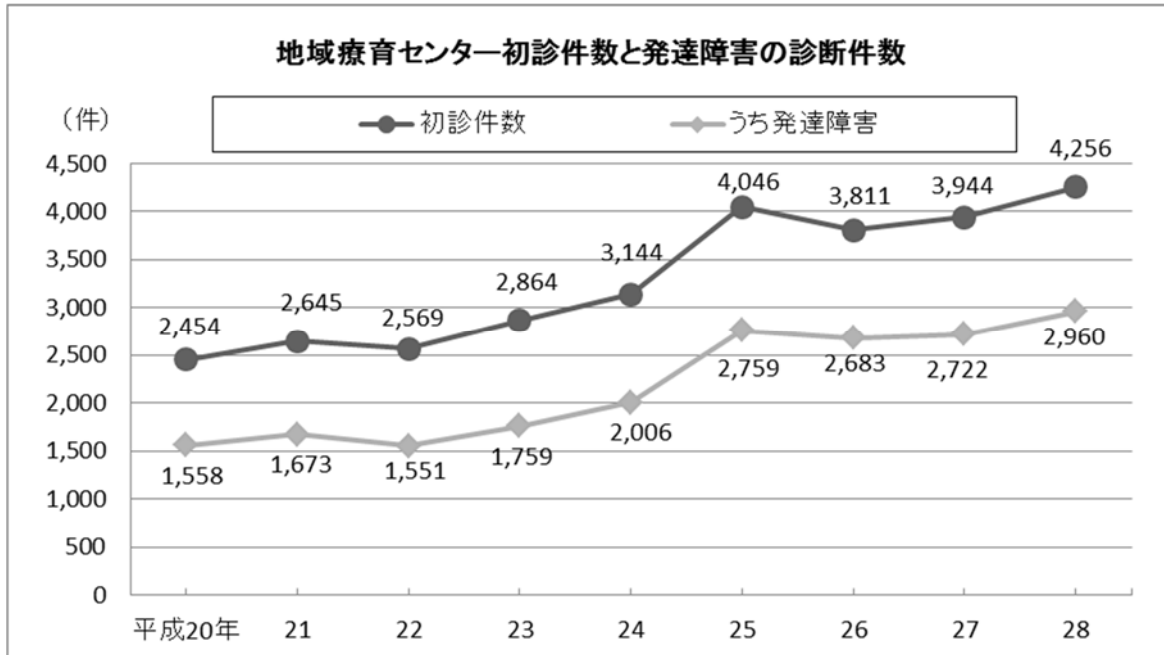
また、このような取組等を円滑に進めていくために、しょうがいじ しゃ ささ じんざい かくほ いくせい  
また、このような取組等を円滑に進めていくために、障害児・者を支える人材の確保・育成や、  
とりくみ きょうか すず  
そのための取組の強化を進めます。

とうじしゃ こえ  
当事者からの声

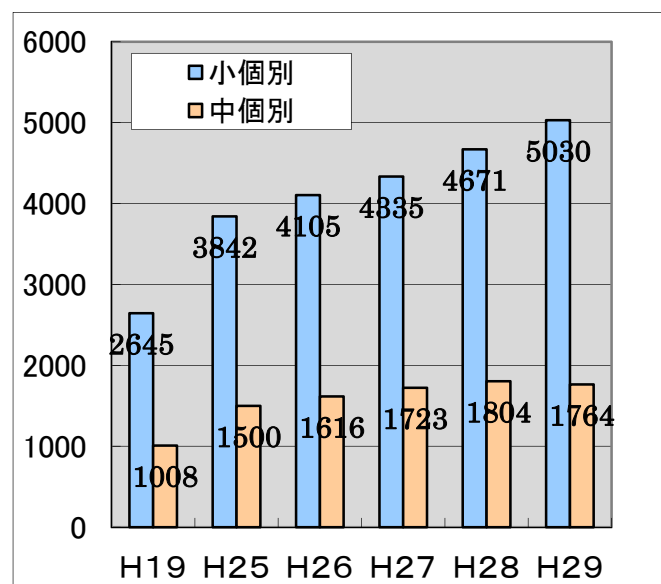
- ようじき ふ おろー ぜんたいてき よわ かぞく さぼーと ちから い  
幼児期のフォローが全体的に弱い。家族のサポートにも力を入れるべき。
- しんたいしょうがい とくべつしえんがっこう かよ いまおも とうごつきょういく ば べんきょう  
身体障害があり、特別支援学校に通ったが、今思えば統合教育の場で勉強ができ  
おも こと  
ていたらと思う事がある。
- こ で き き かのうせい の なん ちゃれんじ  
この子は出来ないと決めつけないで、可能性を伸ばすために何でもチャレンジさせて  
ほ  
欲しい。
- がっこう ほーむるーむ じかん ふつうきゅう ひと はなし でき かお おほ たす  
学校のホームルームの時間に普通級の人と話ができた。顔を覚えてもらうことで助  
けてもらった。
- な しよくいん なが しんらい しよくいん へ わか  
慣れた職員には長くいてほしい。信頼している職員が減ることもいや。しかし若い  
しよくいん はい かな  
職員が入らないことも悲しい。

\*\* とうけいちょうさけっか  
統計調査結果から \*\*

ちいきりょういくせんたーしよしんけんすう はったつしょうがい しんだんけんすう  
●地域療育センター初診件数と発達障害の診断件数



こべつしえんがっきゅうざいせきにんずうすい  
●個別支援学級在籍人数推移



とりくみ りょういく  
取組4-1 療育

げんじょう とりくみ ほうこうせい  
現状と取組の方向性

ちいきりょういくせんたー ひじょう にーず たか じゅうよう しゃかいしげん ひつよう りょういく  
地域療育センターは、非常にニーズが高く重要な社会資源です。必要なときに療育を  
う ちいきりょういくせんたー きのう じゅうじつ じゅうよう  
受けられるためには、地域療育センターの機能の充実が重要です。

そこで、しょうがいじ かぞく ちいき なか あんてい せいかつ おく みずか ちから せいかつ き  
そこで、障害児とその家族が、地域の中で安定した生活を送り、自らの力で生活を切り  
ひら こんご けいぞく ちいきりょういくせんたー きのうきょうか さまざま ふくし  
開いていくことができるよう、今後も継続して地域療育センターの機能強化や、様々な福祉  
さーびす じゅうじつ ほか ひ つづ がくれいき しょうがいじ たい こべつしえん しゅうだんかつどう  
サービスの充実を図ります。また、引き続き学齢期の障害児に対する個別支援や集団活動  
しえん すいしん  
支援を推進します。

し さく  
施策

そうきりょういくたいせい じゅうじつ  
早期療育体制の充実

そうだんしえんたいせい しょうがいじそうだん かくりつ しゅうち  
▶相談支援体制（障害児相談）の確立と周知

げんざい そうだんしえんきかん やくわりおよ いちづ せいり おこな ちいきりょういくせんたー ちゅうしん  
…現在の相談支援機関の役割及び位置付けの整理を行い、地域療育センターを中心と  
しょうがいじ かぞく たい ほんにん じりつ みす そうだんしえんたいせい かくりつ めざ  
した、障害児とその家族に対する本人の自立も見据えた相談支援体制の確立を目指し  
ます。

く じょうきょう ふ く じりつしえんきょうぎかい れんけい そうだんしえんたいせい しゅうち  
さらに、区の状況を踏まえながら区自立支援協議会と連携し、相談支援体制の周知  
すす  
を進めます。

⑧ 【目標】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
しょうがいじそうだん 障害児相談	4,000 人	4,500 人	5,000 人	5,700 人	6,400 人	7,000 人
	実績: 1,771 人	実績: 2,630 人	3,950 人 (実績見込み)			

じどうはったつしえんたいせい かくりつ  
▶ 児童発達支援体制の確立

ちいきりょういくせんたー …地域療育センターにおいて、初診までの期間を短縮するとともに、利用申込みを受け  
た際は、できるだけ速やかに面談を実施し、そこから支援を開始する相談体制を構築  
します。切れ目のない支援に向けても、保育所、幼稚園、学校及び自主的な活動であ  
る地域訓練会などとの連携強化を進めます。

また、医学的な診断に基づく「療育」に加えて、児童の主体性を大事にし自らの育つ  
力を支える「発達支援」、家族に寄り添い子育ての力を高める「家族支援」、そして、地域  
で成長していくことを支える「地域支援」を、包括的に進めます。

さらに、地域療育センターが中心的役割を担い、民間事業者が実施する未就学児に対  
する療育を目的としたサービスの提供を、質・量ともに充実するための仕組みを構築し  
ます。

また、引き続き、障害児の保護者等が自主的に活動している地域訓練会の運営に対  
する支援を行います。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
ちいきりょういくせんたー 地域療育センター うんえいじぎょう 運営事業	しょうがい 障害がある、またはその疑いのある児 童の地域における療育体制の充実な どを目的として運営を行います。 また、くぶくしほけんせんたー 区福祉保健センターの療育相談 へのスタッフ派遣、関係機関への巡回 訪問による技術支援、障害児相談支援 等を行います。 <振り返り> しょうしん 初診の申込件数が多い西部及び東部地 域療育センターの相談場所を拡充し、 支援の円滑化を図ることで、へいせい ねんど 平成28年度 まつ 末で初診待機期間は 3.2月となりまし た。	しょうしんたいきまかん 初診待機期間 3.0月 (現状 3.5 月)	へいせい ねんど 平成29年度 3.0月 (見込み)	○	すいしん 推進	

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
ちいきくんれんかいうんえいひ 地域訓練会運営費 じよせいじぎょう 助成事業	しょうがいじ ほごしゃとう じしゆてき そしき ちいき 障害児の保護者等が自主的に組織し、地域 きのうかいふくくんれん ほいく おこな ちいき で機能回復訓練や保育を行う、地域 くんれんかい うんえいひ じよせい 訓練会の運営費を助成します。 <ふ かえ> ちいきくんれんかい さんか じどう げんしょうけいこう 地域訓練会の参加児童は減少傾向にあ りますが、当事者力や地域力を高める とうじしゃりよく ちいきりよく たか 活動であり、参加促進や参加しやすい工 かつどう さんか そくしん さんか く 場が必要で ふう ひつよう 【助成実績】 へいせい ねんど だんたい 平成27年度：57団体 へいせい ねんど だんたい 平成28年度：56団体	すいしん 推進 げんじょう (現状69 だんたい 団体)	すいしん 推進	○	すいしん 推進	

● ほういくしょうほうちんしえん じゅんかいほうちん  
● 保育所等訪問支援・巡回訪問

ほういくしょうほうちんしえん どうがいしせつ りよう しょうがいじ ちゅうしん しゅうだんせいかつ てきおう  
保育所等を訪問し、当該施設を利用する障害児を中心に、集団生活への適応のための  
せんもんてき しえんとう おこな  
専門的な支援等を行います。

● じどうはつたつしえん いりようがた じどうはつたつしえん  
● 児童発達支援・医療型児童発達支援

がくれいまえ しょうがいじ にちじょうせいかつ きほんてき どうさ しどう ちしきぎのう ふよ しゅうだんせいかつ  
学齢前の障害児に日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活へ  
てきおうくんれん およ ちりよう どう おこな  
の適応訓練（及び治療）等を行います。

● ⑧ 【目標】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
ほういくしょうほうちんしえん 訪問支援・巡回訪問	1,500 人	1,500 人	1,750 人	1,775 人	1,850 人	1,950 人
	実績: 1,497 人	実績: 1,653 人	1,680 人 (実績見込み)			
えん じゅんかいほうちん 巡回訪問	11,000 人日	11,000 人日	14,000 人日	14,500 人日	15,000 人日	17,000 人日
	実績: 10,169 人日	実績: 10,371 人日	11,500 人日 (実績見込み)			

④【目標】

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度	
児童発達支援 ※	49 箇所	52 箇所	55 箇所	100 箇所	110 箇所	120 箇所						
	実績: 53 箇所	実績: 77 箇所	92 箇所 (実績見込み)									
	—	—	—	2,800 人	3,100 人	3,400 人						
	133,000 人日	141,000 人日	149,000 人日									
	実績: 159,562 人日	実績: 176,280 人日	201,000 人日 (実績見込み)	229,000 人日	252,000 人日	275,000 人日						
うち、主に重症心身障害児を支援する事業所 新規				2 箇所	3 箇所	4 箇所						
	—	—	—	10 人	15 人	20 人						
				600 人日	900 人日	1,200 人日						
医療型児童発達支援 ※	9 箇所	9 箇所	9 箇所	9 箇所	9 箇所	9 箇所						
	実績: 9 箇所	実績: 9 箇所	9 箇所 (実績見込み)									
	—	—	—	190 人	190 人	190 人						
	19,000 人日	19,000 人日	19,000 人日									
	実績: 20,953 人日	実績: 18,849 人日	19,000 人日 (実績見込み)	19,000 人日	19,000 人日	19,000 人日						

※ いずれも地域療育センター実施分を含む

●居宅訪問型児童発達支援

重度の障害等のため外出することが著しく困難な障害児の居宅を訪問して発達支援を行います。

④【目標】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
居宅訪問型児童発達支援 新規	—	—	—	— 箇所	1 箇所	1 箇所
	—	—	—	— 人	10 人	10 人
	—	—	—	— 人日分	100 人日分	100 人日分

⑧【目標】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
子ども・子育て支援等 (保育所、放課後児童健全育成事業等) における障害児の受入れ体制の整備 新規	—	—	—	関係機関と連携し、子ども・子育て支援等(保育所、放課後児童健全育成事業等)へ、保育所等訪問支援、巡回訪問及び研修等を拡充することにより、利用を希望する障害児の受け入れ体制の整備を引き続き推進していきます。		

学齢障害児の支援の充実

▶ 放課後等における居場所の充実

…学齢期の障害児を対象に、放課後や夏休みなどに、のびのびと過ごしながら療育訓練や余暇支援を受けられる居場所の確保を進めます。

また、引き続き放課後キッズクラブ等、放課後児童育成事業における受入れも推進します。

さらに、放課後等デイサービス事業所に対し研修を実施する等、障害児支援の質の向上に向けた取組を充実します。

● 放課後等デイサービス事業

就学している障害児に、放課後や長期休暇中において、生活能力の向上のために必要な訓練や社会との交流促進の活動等を行います。

⑧【目標】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
ほつかごとう 放課後等 でいさーび デイサービ すじぎょう 事業	130 しょ か所	165 しょ か所	200 しょ か所	300 しょ か所	350 しょ か所	400 しょ か所
	実績:162 しょ か所	実績:217 しょ か所	262 しょ か所 (実績見込み)			
	—	—	—	6,000 じん 人	7,000 じん 人	8,000 じん 人
	229,000 じん にち 人日	298,000 じん にち 人日	368,000 じん にち 人日	720,000 じん にち 人日	840,000 じん にち 人日	960,000 じん にち 人日
	実績:350,782 じん にち 人日	実績:521,130 じん にち 人日	656,000 じん にち 人日 (実績見込み)			
うち、主 に重症 心身 障害児を 支援する 事業所 新規	—	—	—	10 しょ か所	11 しょ か所	12 しょ か所
	—	—	—	150 じん 人	165 じん 人	180 じん 人
	—	—	—	14,400 じん にち 人日	15,840 じん にち 人日	17,280 じん にち 人日



ちゅうがっこうきこう そうだんしえん かくじゅう  
▶ 中学校期以降の相談支援の拡充

がくれいこうき おも はったつしょうがい じどう あんてい せいじんき むか せいかつじょう  
…学齢後期で主に発達障害のある児童が、安定した成人期を迎えられるよう、生活上  
かだい かいけつ む とりくみ きょうか  
の課題の解決に向けた取組を強化します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
がくれいこう きしょうがい じし 学齢後期 障害児支 えんじぎょう 援事業	いし そーしゃるわーかーどう すたっぷ 医師、ソーシャルワーカー等のスタッフ を配置し、学齢後期の主として発達障 害のある児童を対象として、思春期に おけるそれぞれの課題の解決に向けた診 療、相談及び関係機関との調整等を 行います。 <振り返り> 相談対応延件数は増加傾向にあり、4 か所目の事業実施を検討しました。 平成27年度： 新規利用者:1,193人 相談対応延件数:13,077件 平成28年度： 新規利用者:1,022人 相談対応延件数:14,739件	4か所 (現状3か 所)	3か所	△	4か所	

しょうがいじ りょういくし えんたいせい  
障害児の療育支援体制



※図の中において 実線で囲われたところは機関を表し、その中の点線で囲われた部分は、事業を表します。各機関がライフステージの中で連携をとり、支援を実施します。

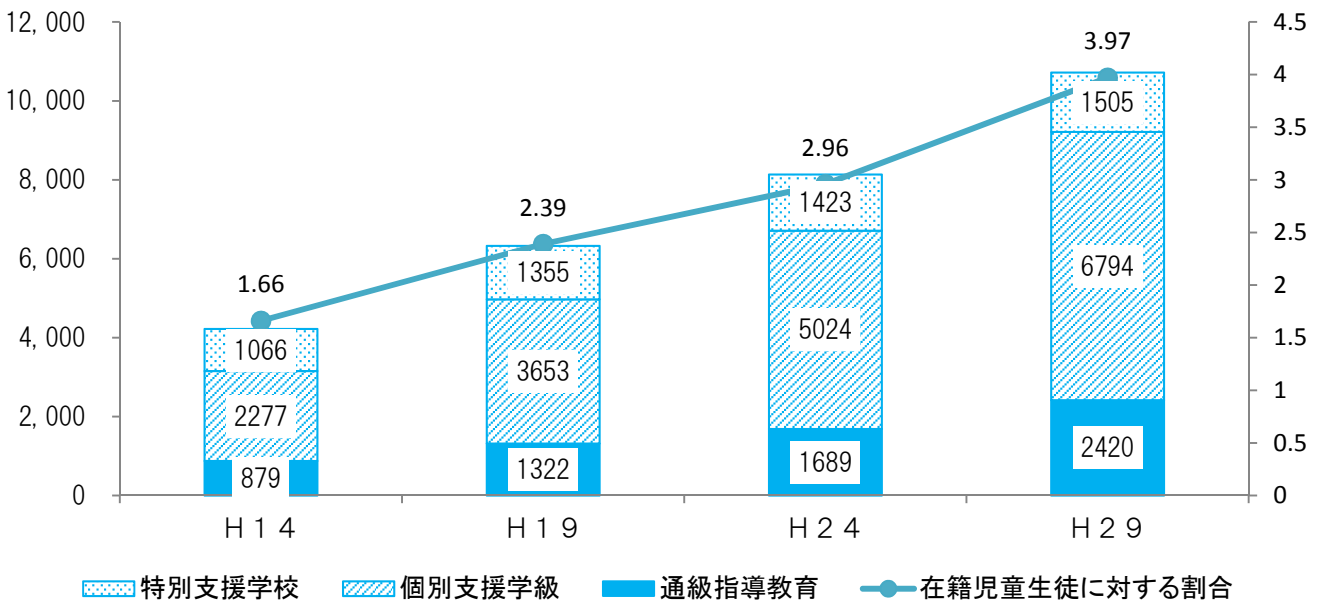
とりくみ きょういく  
取組4-2 教育

げんじょう とりくみ ほうこうせい  
現状と取組の方向性

しょう ちゅうがっこうざいせきしゃすう げんじょう なか ほったつしょうがい とくべつ しえん ひつよう こ  
小・中学校在籍者数が減少している中で、発達障害など特別な支援が必要な子どもたちの  
ぞうか しょうがい じゅうどか たようか しょうきょう ふ ふくし りょういく きょういく れんけいきょうか  
増加や、障害が重度化・多様化している状況を踏まえ、福祉・療育と教育の連携強化による、  
こ ひとり しょうがい じょうたい とくせい たいおう しえん じゅうじつ ひつよう  
子ども一人ひとりの障害の状態や特性に対応した支援の充実が必要です。

しえん ひつよう こ ひとり にーず たいおう ちいきりょういく せん たーとう  
そこで、支援が必要な子ども一人ひとりのニーズに対応するため、地域療育センター等に  
がっこうしえん ほいくしょ ようちえん しょうがっこう れんけい き いったん しえん きょういん  
よる学校支援や保育所・幼稚園・小学校の連携による切れめのない一貫した支援、教員の  
せんもんせい こうじょう しどう しえんたいせい じゅうじつ とくべつしえんがっこう さいへんせいび きょういくかんきょう きょういく  
専門性の向上と指導・支援体制の充実、特別支援学校の再編整備による教育環境や教育  
かつどう じゅうじつ ふくし れんけい しゅうろうしえん じゅうじつ すず  
活動の充実、福祉と連携した就労支援の充実を進めます。

とくべつ しえん ひつよう じどうせいとすう すいひ <出典>横浜市教育委員会調べ  
●特別な支援を必要とする児童生徒数の推移



し さく  
施策

りょういく きょういく れんけい き しえん  
療育と教育の連携による切れめのない支援

しょう ちゅうがっこうとう しえん じゅうじつ  
▶小・中学校等への支援の充実

ちいきりょういく せん たー とくべつしえんがっこうとう せんもんせい かつよう がっこうしえん じっし ようちえん  
…地域療育センターや特別支援学校等の専門性を活用した学校支援の実施、幼稚園  
およ ほいくしやう しょうがっこう れんけい じょうほう きょうゆうかとう にゅうようじき がくれいき  
及び保育所等と小学校との連携による情報の共有化等により、乳幼児期から学齢期ま  
で、切れめのない一貫した支援を目指します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
よこはまがたせんたーてき 横浜型センター的 機能の充実	ちいきりょういくせんたー とくべつしえんがっこう つう 地域療育センターや特別支援学校、通 級指導教室等の担当者が専門性を活 用して支援を行う学校支援体制（横浜 がたせんたーてききのう）の充実を図ります。 そして、小・中学校からの相談や児童 生徒、保護者からの相談に対応するなど、 特別な支援が必要な児童生徒を的確に 支援します。 <振り返り> へいせい ねんど センター的機能のパン 平成28年度には、センター的機能のパン フレットを作成し、市立学校に周知・啓 発を図りました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
とくべつしえんきょういく 特別支援教育に よる幼保小の連携	しょうがっこう ようちえん ほいくじょうと きょうりよく 小学校が、幼稚園・保育所等と協 力して、研究実践を行い、特別支援教 育における幼保小の連携と情報の共 有化に関する研究を行います。 <振り返り> へいせい ねんど ねん ほうめん 平成26・27年度の2か年で、4方面にお いて研究実践を行いました。28年度に は、その研究成果を冊子にまとめ、全 ての市立学校に発信し共有しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
しゅうがくせつめいかい 就学説明会	とくべつしえんきょういく きぼう ようじ しゅうがく 特別支援教育を希望する幼児の就学 に関する説明会を開催します。 <振り返り> へいせい ねんど がつ がつ 平成28年度は5月から6月にかけて 28 回実施しました。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 しゅうがく 就学 せつめいかい 説明会 かい : 26回	○	すいしん 推進	

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
しゅうがく きょういくそうだん 就学・教育相談 たいせいきょうか の体制強化	ひとり ひとり きのういくに ーず てきかく はあく 一人ひとりの教育ニーズを的確に把握 し、じんそく てきせい しゅうがく きょういくそうだん 迅速で適正な就学・教育相談を おこなうために関係機関が相互に連携しな がら、しゅうがくまえ そつぎょうご みとお 就学前から卒業後までを見通した そうだんたいせい きょうか はか 相談体制の強化を図ります。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねんど けん しゅうがく きょういく 平成28年度は4,267件の就学・教育 そうだん おこな ぜんねんど くら やく 相談を行いました。前年度に比べ約300 けんそうか かんけいきかん さら れん 件増加したため、関係機関との更なる連 けい ひつよう 携が必要です。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 しゅうがく きょう 就学・教 いくそうだん 育相談 :4,300件 みこ (見込み)	△	すいしん 推進	
ちやうかくしょうがいじしえん 聴覚障害児支援 じぎょう 事業	よこはましりつしょう ちゅうがっこう ざいせき ちやうかく 横浜市立小・中学校に在籍する聴覚 しょうがい じどうせいと の ーとていく 障害のある児童生徒にノートテイクによ り じょうほう ほししょう じっし 情報の保障を実施します。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねんど じん じどうせいと たい 平成28年度は15人の児童生徒に対し かい ぼらんていあ はけん おこな て、390回のボランティア派遣を行いま した。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 ぼらんていあ ボランティア はけん 派遣 :260回 みこ (見込み)	○	すいしん 推進	
ほごしゃきょうしつかいさい 保護者教室開催 じぎょう 事業	よこはましりつしょう ちゅうがっこう とくべつしえんがっこう 横浜市立小・中学校、特別支援学校の ほごしゃ たいしょう しょうがい たい ただ 保護者を対象とした障害に対する正 しん ちしき けいはつ すす しい知識の啓発を進めます。 <ふ かえ 振り返り> まいとし なんちやう げんごしょうがい 毎年、難聴・言語障害にかかわるもの を3回、はつたつしょうがい 発達障害にかかわるものを3回 かいさい 開催しています。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 ほごしゃきょうしつ 保護者教室 :6回	○	すいしん 推進	

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
なつやす しえんじぎょう 夏休み支援事業 きゅうがくれいしょうがいじ (旧学齢障害児 なつやす しえんじぎょう 夏休み支援事業)	とくべつしえんがっこうようじじどうせいと なつやす 特別支援学校幼児児童生徒の夏休み期 間中における余暇活動の充実、保護者 の介護負担の軽減及び地域との連携を すす 進めます。 <振り返り> とくべつしえんがっこう なつやす きかん かくこう 特別支援学校の夏休み期間に、各校の じつじょう あ ぶーる かいほう ぶかつどう 実情に合わせて、プール開放や部活動・ レクリエーション活動等の余暇活動を まいねんどじっし 毎年度実施しています。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 さんかしゃ 参加者 :4,700人 (見込み)	○	すいしん 推進	
しりつようちえんどう 私立幼稚園等 とくべつしえんきょういくひほじよ 特別支援教育費補助 じぎょう 事業	しりつようちえんどう ざいせん しょうがいじ 私立幼稚園等に在園している障害児に たい きょういく しょうがい しゆるい ていど 対する教育が、障害の種類・程度など におう てきせつ おこな に応じて適切に行われるよう、その経費 いちぶ せつちしゃ ほじよ しょうがいじ きょう の一部を設置者に補助し、障害児の教 いく やくだ 育に役立てます。 <振り返り> へいせい ねんど とくべつしえんきょういくひ ほじよ 平成28年度の特別支援教育費補助の たいしょうえんじすう 903 にん ほじよそうがく 対象園児数は903人、補助総額は 180,600せんえん 千円となりました。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 ほじよそうがく 補助総額 :95,000せん 円	○	すいしん 推進	

きょういくかんきょう きょういくかつどう じゅうじつ  
教育環境・教育活動の充実

きょういん せんもんせいこうじょう とくべつしえんがっこう さいへんせいび  
▶教員の専門性向上、特別支援学校の再編整備

けんしゅう じんざいいくせい ゆにばーさるでざいん してん もと じゅぎょうどう しどうほうほう  
…研修による人材育成、ユニバーサルデザインの視点に基づく授業等の指導方法の  
けんさくおよ つうがくいき せつてい がくしゅうかんきょう かいぜん とくべつしえんがっこう さいへんせいびとう  
研究及び通学区域の設定や学習環境の改善による特別支援学校の再編整備等により、  
きょういくかんきょう きょういくかつどう じゅうじつ  
教育環境や教育活動を充実します。

ひょう 表 一般学級に在籍する特別な支援が必要とされる児童生徒数の推移

		平成23年度	平成25年	平成27年	平成29年
小 学 校	支援が必要な人数	10,124人	10,907人	9,521人	16,771人
	全体数	190,265人	185,380人	177,655人	176,181人
	割合	5.32 %	5.88 %	5.35 %	9.51 %
中 学 校	支援が必要な人数	2,141人	2,225人	2,201人	4,716人
	全体数	79,658人	81,512人	79,472人	77,334人
	割合	2.69 %	2.73 %	2.76 %	6.09 %

よこはましきょういっかいしんかいしら  
(横浜市教育委員会調べ)

- \* 平成27年以前は「自閉症の行動特性を有した児童生徒に関する調査」として実施して  
 きましたが、現在は「発達障害のある児童生徒に関する調査」に変更となり、より対象  
 が広がったため、平成29年より数値の傾向が変化しています。(手帳及び診断の有無を問  
 わない調査のため、あくまで参考数値です。)

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	平成29年度		ひょうか 評価	平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
とくべつしえんきょういっこー 特別支援教育コー ディネーターの機能 強化とスキルアップ (旧発達障害児等 支援事業)	とくべつしえんきょういっこーでいねーたーようせいけん 特別支援教育コーディネーター養成研 修を受講して活動している特別支援 教育コーディネーターを対象に、さら なるスキルアップを目指して、事例研究 などを中心とした研修を進めると共 に、関係機関との連携を強化し、専門的 な資質を高めます。 <ふかえ 振り返り> 平成28年度、養成研修は326人を対 象に15回、スキルアップ研修は70人 を対象に10回実施しました。また、各 区、方面協議会において各校の取組の 共有や事例検討を行いました。	すす 進	すす 進	○	すす 進	

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
ゆにばーさるでざいん ユニバーサルデザイン してんもと じゆぎょう の観点に基づく授業 てんかい の展開	いっぱんがつきゅう きょうかがくしゅう とくべつし 一般学級の教科学習において、特別支 えんきょういく うだ さまざま くふう と 援教育で生み出された様々な工夫を取り い すべ こ 子どもたちの じゆぎょう たい い 入れ、全ての子どもの授業に対する意 よく たか りかい ふか 欲を高めたり、理解を深めたりすることを目 ざ 指します。 ふ かえ <振り返り> とくべつしえんきょういくそうごうせんたーおよ せんたー 特別支援教育総合センター及びセンター けんしゅうせい きんむごう けんきゅう おこな 研修生の勤務校において研究を行い まいとし がつ ほうこくかい かいさい じゅう 毎年3月に報告会を開催しています。重 てんけんきゅう おこな がっこう たい しょう 点研究を行っている学校に対し、指導 じよげん じっし 助言を実施しています。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
とくべつしえんがっこう 特別支援学校におけ るICT機器の活 よう 用	しゅたいてき がくしゅう こうかてき たぶれつ 主体的な学習のための効果的なタブレ とたんまつ かつよう とくべつしえんがっこうせん ト端末の活用について、特別支援学校全 こう じっせんけんきゅう おこな 校で実践研究を行います。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど ねん すべ しりつとく 平成26～28年度の3か年で、全ての市立特 べつしえんがっこう こう じっせんけんきゅう おこな 別支援学校(12校)で実践研究を行 ました。平成26年度末には研究の中 ほうこく さっし ねんど さいしゅうほうこく 報告を冊子にまとめ、29年度に最終報告 よてい を予定しています。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
とくべつしえんがっこう 特別支援学校の さいへんせいび 再編整備	にゅうがくしやそう とちな きょうあいか たいおう 入学者増に伴う狭隘化のため対応が ひつよう とくべつしえんがっこう したいふ じゅう さいへん 必要な特別支援学校(肢体不自由)を再編 せいび かんきょう かいぜん きょういくないよう じゅう 整備し、環境の改善と教育内容の充 じつ はか 実を図ります。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど きこんやまとくべつしえんがっこう か 平成31年度の左近山特別支援学校(仮 しょう かいこう む せつけいとう じっし 称)の開校に向けた設計等を実施すると かみすげたとくべつしえんがっこう ぶんこう いこう もに、上菅田特別支援学校の分校に移行 きたつなしまとくべつしえんがっこう ほごしゃせつめい する北綱島特別支援学校では保護者説明 かい こべつめんだんとう じっし 会や個別面談等を実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	△	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
とくべつしえんがっこう 特別支援学校 すくーるばす うんこう スクールバスの運行	<p>じどうせいと どうげこう あんぜんかくほ せいしんてき しん 児童生徒の登下校の安全確保と精神的・身 たいきふたん けいげん がっこうきょういく じゅう 体的負担の軽減による学校教育の充 じつ はか すくーるばす うんこう 実を図るため、スクールバスを運行します。</p> <p>ふ かえ 〈振り返り〉</p> <p>へいせい ねんど したいふじゆうこう すくーるばす 平成28年度には胡枝体不自由校でスクールバス だいぞうしゃ こう こーす うんこう じっし を1台増車し、8校41コースの運行を実施し ました。また、平成29年度から全てのバスに へいせい ねんど すべ ばす 位置情報システムを導入し、適正な運行 いちじょうほうしすてむ どうにゆう てきせい うんこう 管理及び保護者の利便性向上を図りました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
とくべつしえんがっこういりょう 特別支援学校医療 てきけ あたいせいせいびじぎょう 的ケア体制整備事業 きゅうしたいふ じゅうとくべつ (旧 肢体不自由特別 しえんがっこういりょうてきけ 支援学校医療 的ケ あたいせいせいび じぎょう ア体制整備事業)	<p>とくべつしえんがっこう したいふじゆう こう かんごし 特別支援学校(肢体不自由)5校に看護師を はいち じどうせいと しゅじいとう しじ 配置しています。児童生徒の主治医等の指示 もと かんごし きょういん れんけい い に基づき、看護師と教員が連携して、医 りょうてきけ あじっしたいせい せいび おこな 療的ケア実施体制の整備を行います。</p> <p>ふ かえ 〈振り返り〉</p> <p>したいふ じゅうとくべつしえんがっこう こう かんごし 肢体不自由特別支援学校5校に看護師を はいち きょういん れんけい いりょうてきけあじったい 配置し、教員と連携した医療的ケア実施体 せい こうちく いりょうてきけあ とみな じ 制を構築することで、医療的ケアを伴う児 どうせいと あんしん あんぜん きょういく う 童生徒が安心・安全に教育を受けられる かんきょうせいび おこな 環境整備を行っています。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
こうないけんしゅう じっし 校内研修の実施	<p>いっばんがっきゅう とくべつ しえん しょう 一般学級においても特別な支援を要する じどうせいと そうか しえん にーず たようか 児童生徒が増加し、支援のニーズが多様化して じょうきょう ふ すべ きょういん しょうがい いる状況を踏まえ、全ての教員が障害 じょうたい とくせい おう しどう しえん おこな の状態や特性に応じた指導・支援を行え るよう、ケーススタディを重視した研修を じゅうじつ せんもんせい こうじょう めざ 充実させ、専門性の向上を目指します。</p> <p>ふ かえ 〈振り返り〉</p> <p>すべ しょう ちゅうがっこう しょうがいしゃ 全ての小・中学校において、「障害者 さべつかいしょうほうしこう とみな ざうりてきはいりよ 差別解消法施行に伴う合理的配慮」や はったつしょうがい りかい ふか 「発達障害の理解を深めるために」など かくこう じつじょう おう てーま こうないけんしゅう 各校の実情に応じたテーマで校内研修 じっし を実施しています。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつしえんきょういっくしえん 特別支援教育支援 員事業 きゅうしょうがいじがっこうせい (旧 障害児学校生 かつしえんいんじぎょう 活支援員事業)	しょう ちゅうがっこう しょうがい がくしゅうめん 小・中学校で障害により学習面、 せいかつめん あんぜんめん しえん ひつよう じどう 生活面や安全面への支援が必要な児童 せいと たい ぎょうないしえんたいせい ととの 生徒に対し、校内支援体制が整うまで あいだ とくべつしえんきょういっくしえんいん はいち の間、特別支援教育支援員を配置しま す。 ふ かえ <振り返り> しょう ちゅうがっこう しょうがいどう がくしゅうめん 小・中学校で障害等により学習面、 せいかつめん あんぜんめん しえん ひつよう じどう 生活面や安全面への支援が必要な児童 せいと たい とくべつしえんきょういっくしえんいん はい 生徒に対し、特別支援教育支援員を配 置しました。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	
とくべつしえんきょういっく 特別支援教育の りーだー いっくせい リーダーの育成	だいがくとうせんもんきかん はけん おこな 大学等専門機関への派遣を行うことに より、とくべつしえんきょういっく にな きょういん 特別支援教育を担う教員の りーだー ようせい おこな リーダーの養成を行います。 ふ かえ <振り返り> きょうしよくいん とくべつしえんきょういっく かん し 教職員の特別支援教育に関する指 どうりよく こうじょうおよ こうない とくべつし 導力の向上及び校内における特別支 えんきょういっく りーだー いっくせい よこはまこく 援教育のリーダー育成として、横浜国 りつだいがく とくべつしえんきょういっく こーでい ねーた 立大学の特別支援教育コーディネータ ーようせい こーす はけんけんしゅう しょうがっこうきょう 一養成コース派遣研修に小学校教 ゆ はけん とくべつしえんきょういっく 諭を派遣しました。また、特別支援教育 こーでい ねーたーむ けんしゅう みなお コーディネーター向けの研修を見直し、 じっせんてき ないよう と い より実践的な内容を取り入れるなど、ス きる あっぶ はか キルアップを図っています。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	

特別支援学校におけるICTの活用について

これからの変化の激しい社会を生きる子ども達に、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた「生きる力」を育成するため、学校教育において、ICTの特長を効果的に活用することが必要です。特に障害のある子どもたちに対しては、障害の状態等による情報の収集、処理、表現及び発信などの困難について実態を把握し、一人ひとりの実態に合わせた支援技術を選択し、子どもたちが情報を主体的に活用していく能力の習得が求められます。

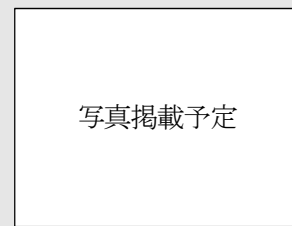
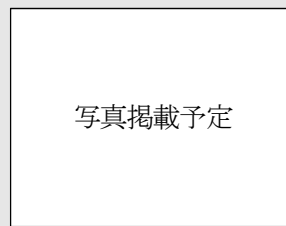
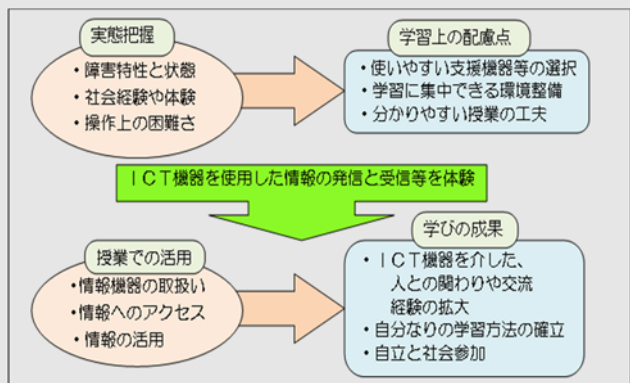
そのため本市では、平成26年度から平成28年度にかけて、市立特別支援学校12校を順次ICT機器の利活用研究実践校に指定し、タブレット端末を学校へ導入する際の課題解決や、授業でのICT機器の利活用研究を進めてきました。

どの特別支援学校においても、タブレット端末の導入によって、子ども達の主体的な学びが促進されています。

ただし、障害による困難に対応したタブレット端末の導入に当たっては、一般学級における一斉使用とは異なり、個性の高いものになるため、しっかりと実態を把握し、実践を行い、評価することが大切です。

この研究における多様な障害の状態に応じた実践内容や、成果・課題を報告会やまとめの冊子「ICT機器の利活用推進ハンドブック」として横浜市立小中学校に発信しています。

平成29年度末には無線LANの利用のための環境整備も完了したので、今後は各学校の状況に合わせたICT機器の整備を進め、障害のある子ども達の学びを充実していきます。

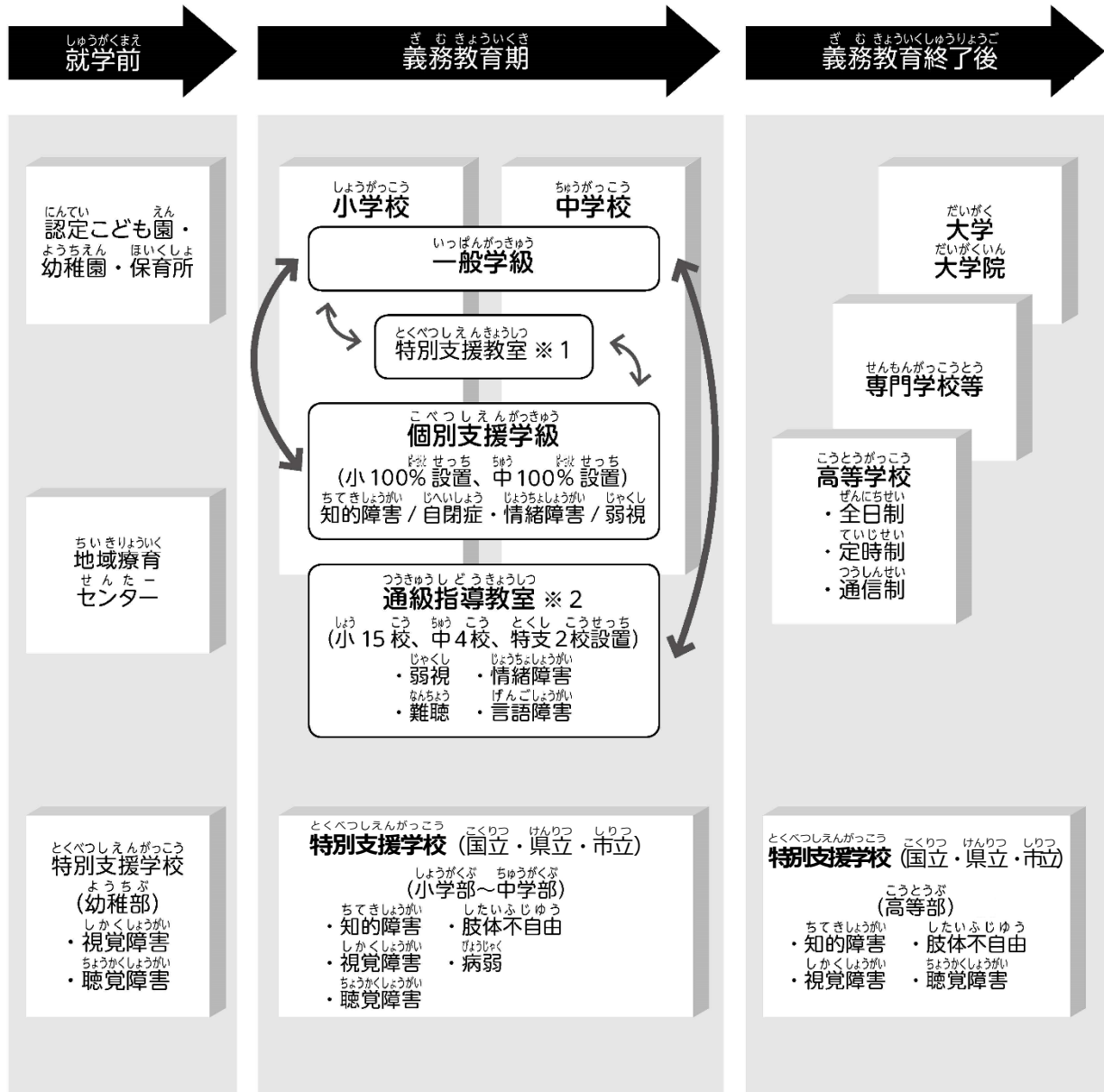


教育から就労への支援

▶ 特別支援学校等と就労支援機関の連携強化

…特別支援学校等の進路担当者、障害者支援センター、就労支援センター、企業及び福祉施設担当者等就労支援機関の連絡会を開催し、連携の強化による就労支援・職場定着支援の充実を進めます。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
とくべつしえんがっこうしゅうろう 特別支援学校就労 支援事業	<p>きぎょうしゅうろう めざ せいと じっしゅうさきかいたく 企業就労を目指す生徒の実習先開拓 しよくばていちゃくしえん おこな こうとうとくべつ や職場定着支援を行うため、高等特別 しえんがっこう わかば だいとくべつしえんがっこうちてきしょう 支援学校(若葉台特別支援学校知的障 がいきょういくぶもん ぶく しゅうろうしえんしどう 害教育部門を含む)に就労支援指導 いん はいち 員を配置します。</p> <p>ふ かえ &lt;振り返り&gt;</p> <p>こうとうとくべつしえんがっこう ひのちゅうおう ふた ばし 高等特別支援学校(日野中央、二つ橋、 わかば だいちてきしょうがいきょういくぶもん こう 若葉台知的障害教育部門)の3校に1 り しゅうろうしえんしどういん しよくたくいん 人ずつ就労支援指導員を嘱託員とし はいち かくこう じっしゅうさきかいたく て配置し、各校における実習先開拓や しよくばていちゃくしえん きよ 職場定着支援に寄与しています。</p>	すいしん 推進	しゅうろうしえんし 就労支援指 導員を はいち 配置	○	すいしん 推進	
とくべつしえんがっこうしんろ 特別支援学校進路 担当者連絡会の 開催	<p>しりつとくべつしえんがっこう しんろたんどうしゃ しょうがい 市立特別支援学校の進路担当者が障 しよくばつ こ ていきてき じょうほうこうかん じれい 種別を超えて定期的に情報交換や事例 けんきゅう おこな はばひろ しんろせんたく たいおう 研究を行い、幅広い進路選択に対応 できるようにします。</p> <p>ふ かえ &lt;振り返り&gt;</p> <p>しりつとくべつしえんがっこう しんろたんどうしゃ じょうほう 市立特別支援学校の進路担当者の情報 こうかん じれいけんきゅう ねんかん かいていどじっし 交換や事例研究を年間5回程度実施し、 はばひろ しんろせんたく たいおう 幅広い進路選択に対応できるようにし ました。</p>	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 しんろたんどうしゃ 進路担当者 れんらくかい 連絡会 かい :5回 (予定)	○	すいしん 推進	



(参考) 横浜市における特別支援教育を行う場所 (平成29年現在)

※1 特別支援教室：集団では学習に参加することが難しい児童生徒が、一時的に一般学級を離れて、落ち着ける環境の中で学習するためのスペース

※2 通級指導教室：一般学級に在籍する、比較的軽度の障害のある児童生徒に対して、障害の状態に応じて特別な指導をするための場。

特別な支援の必要な子どもたちは、就学前から様々な機関の支援を受けていることが多くあり、それぞれの支援の内容や具体的な方法が切れめなく継続していくようにすることが大切です。就学期には特に「個別の教育支援計画」を作成して、進級・進学の際の引き継ぎに活用しています。

とりくみ じんざい かくほ いくせい  
取組4-3 人材の確保・育成

げんじょう とりくみ ほうこうせい  
現状と取組の方向性

しせつ さーびす しゃかいしげん せいび すす うんえい ほうじん  
施設やサービスなどの社会資源の整備を進めましたが、それらを運営している法人は、  
げんば はたら じんざい かくほ くりよ げんじょう じんざい かくほ  
現場で働く人材の確保に苦慮しているのが現状です。たとえ、人材を確保できたとしても、な  
ていやく じんざい いくせい むずか こえ あ  
かなか定着せず、人材の育成も難しいという声が挙がっています。

そのため、行政としても各施策における人材確保・育成を推進することが必要です。

よこはましない しょうがいふくしげんば はたら じんざい かくほ いくせい じんかんじ  
そこで、横浜市内のそれぞれの障害福祉現場で働く人材の確保や育成について、民間事  
ぎょうしゃ かんけいきかんとう きょうどう とりくみ けいぞく おこな じんざいかくほ む しく とう  
業者や関係機関等と協働した取組を継続して行います。また、人材確保に向けた仕組み等の  
こうちく めざ こうりつてき じっししゅほう けんとう  
構築を目指すなど、効率的な実施手法を検討します。

し さく  
施策

しょうがいふくしじゅうじしゃ かくほ いくせい  
障害福祉従事者の確保と育成

しょうがいふくし かか じんざい かくほ いくせい  
▶ 障害福祉に関わる人材の確保・育成

しょうがいふくしぶんや じんざい かくほ いくせい めざ じんかんじぎょうしゃとうかんけいきかん きょうどう しゅうちゅう  
…障害福祉分野の人材の確保・育成を目指し、民間事業者等関係機関と協働した集中  
てき かくほじぎょう てんかい しょうがいくせい おう しえん けんしゅう けんとう じっし  
的な確保事業の展開や障害特性に応じた支援のための研修などを検討・実施します。  
あわ しょうがいふくししせつとう はたら かんごし かくほおよ ていちゃくしえん ほうさく けんとう  
併せて、障害福祉施設等で働く看護師の確保及び定着支援のための方策を検討します。

また、引き続き日常生活の様々な場面で必要となる移動の支援に携わる人材の確  
ほ いくせいさく じっし  
保・育成策も実施します。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
がくせいとう たいしょう 学生等を対象とし じんざい かくほ じぎょう た人材の確保事業 ㊦	せんもんがっこう しなだいがくどう れんけい がくせいむ 専門学校や市内大学等と連携し、学生向 けに説明会やセミナー、見学ツアー等を行 い、障害福祉に触れる機会を増やすなど、 しょうがいふくし じんざい かくほ とうりくみ 障害福祉への人材確保に向けた取組を おこな 行います。 ぶ かえ <振り返り> ・平成27年「福祉のしごとフェア」に関連 だんたい きんかく 団体と参画しました。 ・障害福祉人材不足の解決に向け、 みんかんじぎょうしゃ きょうどう ゆうこう こうほう 民間事業者と協働して、有効な広報や だかいさく けんどう 打開策を検討しています。	すいしん 推進	じっし 実施	△	すいしん 推進	
しょうがいとくせい おう 障害特性に応じた しえん けんしゅう 支援のための研修	こうどうしょうがい はったつしょうがいどう しょうがいとくせい 行動障害や発達障害等の障害特性 (に)応じた研修や、触法障害者に関する けんしゅう けんどう じっし 研修などを検討・実施します。 ぶ かえ <振り返り> ・障害福祉サービス事業所等の職員を たいしょう こうどうしょうがい かか しえんりよくこうじょう 対象に、行動障害に係る支援力向上 を図るための研修を市内法人が共同し て「オール横浜」として実施しました。(再 けい 掲) ・発達障害に関する一次相談支援機関 しえんすきるこうじょう けんしゅう じっし の支援スキル向上のため、研修を実施し ました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	現状
医療従事者研修事業 さいけい再掲 ㊤	疾病や障害のある小児及び重症心身障害児・者の支援に必要な知識・技術の向上を図り、障害特性を理解した医療従事者を育成するための研修を実施します。 <振り返り> 医療機関や福祉施設等に勤務する看護師を対象に「小児訪問看護・重症心身障害児者研修」を全11日間実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
障害福祉施設等で働く看護師の支援 さいけい再掲 ㊤	障害福祉施設等で働く看護師の定着に向けた支援を行うとともに、確保の方策について検討します。 <振り返り> 社会福祉法人型地活ホーム等に歯科医師を派遣し、食事場面において、障害福祉の現場に即した助言指導や研修を実施しています。また、社会福祉法人型地活ホームや多機能型拠点で働く看護師を対象とした会議を開催し、課題の共有やネットワークづくりを行っています。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
就労支援線の 人材育成 さいけい再掲	就労支援関係職員の支援スキルを向上させるため、人材育成の仕組みづくりを検討します。 <振り返り> 就労支援センターのあり方検討の中で、次の内容に取り組むことを決めました。 ・基礎知識・スキルの整理と学習の機会の検討 ・障害種別研修や他機関と連携した研修の実施 ・本市開催の相談支援研修への参加	けんとう ぶ 検討を踏まえた研修等の じっし 実施	じっし 実施	○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
しょうがいふくしきーびす 障害福祉サービス じぎょうしょうとうしやくいんむ 事業所等 職員向け けんしゅう の研修	じぎょうしょ しょうがいしゃこやう おこな 事業所の職員が、障害者雇用を行っ ている企業での「就業体験」などを通 じて、就労支援スキルの向上や、就労 に向けた意識付けを行います。 <振り返り> きぎょう だんたい きやうりよく しなひじぎょう 企業・団体の協力のもと、市内事業 所職員を対象に実施しました(毎年度 6～7月)。	さんかになんずう 参加人数 るいけい (累計) 90人	へいせい ねんど 平成29年度 さんかになんずう 参加人数 るいけい (累計) :173人	○	さんかになんずう 参加人数 るいけい (累計) 380人	
がいでへるばーとう ガイドヘルパー等 けんしゅうじゅこつりやうじよせい 研修受講料助成 あ	がいでへるばーとう しかくしゆとく ガイドヘルパー等の資格取得のための けんしゅうじゅこつりやう いちぶ じよせい じんざいかくほ 研修受講料の一部を助成し、人材確保 を図ります。 <振り返り> へいせい ねんどじよせいにんずう にん 平成28年度助成人数 : 210人 そうじよせいがく えん 総助成額 : 3,759,000円 うちわけ ちてきがいでへるばー けん ぜんしんせい 内訳 : 知的ガイドヘルパー39件、全身性 ガイドヘルパー44件、同行援護一般課程 100件、行動援護31件	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 じよせいにんずう 助成人数 : 250人 みこ (見込み)、 そうじよせいがく 総助成額 : 5,000,000円 みこ (見込み)	○	すいしん 推進	
がいでへるばー ガイドヘルパー すきるあつぷけんしゅう スキルアップ研修 ②	しつ たか きーびす ていきやう より質の高いサービスが提供できるよ う、移動支援事業の従業者を対象に けんしゅう じっし 研修を実施します。 <振り返り> へいせい ねんどさんかになんずう るいけい 平成28年度参加人数(累計) ・サービス提供責任者向け研修 : 132 人(全4回) ・従業者向け研修 : 250人(全6回)	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 さんかになんずう 参加人数 (累計) ・サービス提 供責任者向 けんしゅう け研修 : 74 人 ・従業者 けんしゅう 向研修 : 101人	○	すいしん 推進	

とうじしゃ しえんたいせい じゅうじつ  
当事者による支援体制の充実

とうじしゃだんたい かつどう しえん  
▶当事者団体の活動への支援

しょうがいしゃほんにん かぞく わ なや う と かいけつほうほう ていじ  
…障害者本人や家族にしか分からない悩みを受け止めることや、解決方法を提示できる  
じんざい かくほ いくせい じっし とうじしゃだんたいかつどう しえん じゅうじつ かくだんたい  
人材の確保・育成を実施していくため、当事者団体活動への支援を充実し、各団体の  
いくせい と く  
育成に取り組みます。

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
しゃかいさんかすいしんせんた 社会参加推進セン ターによる団体活動支 援機能の充実	しょうがいしゃほんにん かつどう ささ じんざい いくせい 障害者本人の活動を支える人材の育成 をすすめるとともに、おなじょうがい ひと 同じ障害がある人たち のこうりゅう こみゆにけーしょん きかい の交流やコミュニケーションの機会を かくじゅう かくだんたいかつどう そくしん とりくみ 拡充し、各団体活動を促進する取組を すすしん 推進します。 ふ かえ ＜振り返り＞ しょうがいしゃ じりつ しゃかいさんかとう そくしん 障害者の自立や社会参加等を促進する ためのとうじしゃ じぎょう じぎょうじっし 当事者による事業を17事業実施 しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
しょうがいしゃほんにんおよ か 障害者本人及び家 族による普及・啓発 活動の推進  さいけい 再掲	しゃかいさんかすいしんせんたー ちゅうしん 社会参加推進センターが中心となり、 しょうがいしゃほんにん かぞくおよ かくだんたい れんけい 障害者本人、家族及び各団体と連携・ きょうどう しょうがいりかい そくしん む ふきゅう 協働し、障害理解の促進に向けた普及・ けいはつかつどう すいしん 啓発活動を推進します。 ふ かえ ＜振り返り＞ しゃかいさんかすいしんせんたーとう ふきゅうけい 社会参加推進センター等により、普及啓 発リーフレットの作成及び啓発講座等を じっし 実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	